

「保険でよい良い歯科医療」 請願署名にご協力を！

協会では「保険でより良い歯科医療を」兵庫連絡会とともに、「いつでも、どこでも、だれもが、お金の心配をせず『保険で良い歯科医療』の実現を求める」国会請願署名に取り組んでいます。年内に2万筆を目標に集めておりますので、全会員の皆さまにぜひご協力をお願い申し上げます。今回の請願項目は、(1)「お金の心配をせず、歯科医療を受けられるよう、窓口負担を引き下げてください」、(2)「保険のきく歯科治療を増やしてください」とともに、(3)「国の歯科医療にかかわる予算を増やしてください」の三つを掲げて、患者・国民とともに歯科医療の充実を求めています。

署名とリーフレットは『月刊保団連』8月号に同封しております。まずはご家族・スタッフの皆さまのご署名から返送ください。そして、窓口には患者さんにもすすめてください。署名付きのポケットティッシュもございますので、ご希望の方は事務局までご一報ください。

署名・リーフレットの追加注文、ポケットティッシュのご注文は、電話 078-393-1809、FAX078-393-1802 歯科部会まで

いつでも、どこでも、だれもが、お金の心配をせず
「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名

衆議院議長・参議院議長 殿

お口の健康は、全身の健康に深く関係しています。歯を治療することによって糖尿病、腎臓病、心臓病、さらには認知症などの改善につながっていることも明らかになってきています。

しかし、日本社会では格差と貧困が拡大し、口腔の健康格差も生じています。さらに、子どもから高齢者まで口腔の健康悪化と治療と負担の増大が懸念されています。

歯の健康の調査では、経済的理由で歯科治療を中断する人を6割の医療機関で経験しています。大抵や宮城、長野、三重、若手の調査では、学校歯科健診で受診とされた児童生徒のうち、小学校で約半数、中学校で3割程度しか受診していないことが報告されています。また、厚労省の調査でも療育施設の約6割が十分な歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科受診をしたのは3割弱という調査結果もあります。

新しい労働環境や格差と貧困の広がりは、経済的理由での未受診、歯科治療の早期受診や治療の継続を妨げています。加えて歯科では医療的ケアが必要な患者の増加が、お金の面で不安がさらに受診を妨げる要因になっています。

歯の健康と生活の質を向上させるためには、患者、国民、歯科医療従事者の共通の

保険で良い
歯科医療の実現を

署名にご協力
ください。

私たちは、いつでも、どこでも、だれもがお金の心配をせず、保険で良い歯科医療を受けられるよう、3つの項目で署名を呼びかけています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

- お金の心配をせず、歯科医療を受けられるよう、窓口負担割合を引き下げてください。
- 保険のきく歯科治療を増やしてください。
- 国の歯科医療にかかわる予算を増やしてください。

◎この個人情報は請願以外には使用しません

は、患者、国民、歯科医療従事者の共通の

割合を引き下げてください。

兵庫県保険医協会 姫路・西播支部ニュース

No.219 2016年1月25日発行



発行 兵庫県保険医協会姫路・西播支部 支部長 宗実琴子
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1803 FAX/078-393-1802

新年のごあいさつ

姫路・西播支部支部長 宗実 琴子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年、姫路市では中学生までの子どもの医療費無料化が始まりましたが、対象者には所得制限があります。お金の心配なく、いつでも安心して受診できる制度となるよう改善を求めています。

今年も、恒例となった西播5市6町を訪問し自治体の首長や担当者と懇談する「自治体キャラバン」を西播社保協と協力して実施する予定です。介護や子育て支援の改善など、今後も粘り強い働きかけが必要と考えています。

今夏には参議院選挙があります。昨年、国民の多数が「説明が不十分」としたなかで強行採決された安保法制をはじめ、消費税、TPP、憲法などさまざまな課題があります。国民医療と皆保険制度を守るため、社会保障の拡充など私たちも声を上げていかなければと感じています。

昨年は支部企画として医療安全管理研修会、憲法学習会、医院経営研究会などを行いました。今年はバスツアーや映画の上映会も計画しています。

支部では、会員各位のご意見をお聞きしながら、今年も様々な企画を行う予定です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



支部ニュースへぜひご投稿ください

日常診療のことや医科・歯科連携などテーマは自由です。

ぜひご投稿ください。よろしくお祈りします。

お問い合わせは、TEL 078-393-1803 FAX: 078-393-1802

E-mail: arimoto@doc-net.or.jp

担当事務局；有本まで

医院経営研究会

コンピテンシー面接で 医療機関を支える仲間を迎える



左・嶺山先生が面接のポイントを分かりやすく解説
右・職員に求めるコンピテンシーを参加者それぞれ確認した

支部は1月17日に第4回医院経営研究会を姫路のじばさんびるで開催し、医師、歯科医師ら18人が参加した。「職員採用面接の基礎とポイント～具体的な流れとコンピテンシー面接～」をテーマに、社会保険労務士の嶺山洋子先生が講演を行った。

嶺山先生は、職員採用を行うにあたり、「どのような目的で採用するのか」「どのような人材を採用したいのか」を「コンピテンシー」を使い明確にすることを提案した。

「コンピテンシー」とは「行動特性」であり、「問題解決・トラブル処理能力」「傾聴力」「コスト意識」などのコンピテンシー項目の中から院長や管理的人材が「スタッフに求めるコンピテンシー」を選び、そこから評価表をつくる方法を紹介した。

また、回答者によって差が出る「開かれた質問」をすることで評価がしやすくなると解説。「前職でトラブルがあったときにどうしたか」「どのような工夫をして解決したのか」など、具体的に答えてもらう質問を事前に用意することをアドバイスした。

参加者からは「具体的なポイントが聞けて良かった」「面接の中身を見直す機会となった」などの感想が寄せられた。

自治体キャラバンにのべ130人が参加 住民に寄り添う社会保障施策を

支部が協力する西播社会保障推進協議会(西播社保協)は、毎年自治体キャラバンとして5市6町の担当者などと懇談を行い、社会保障改善を訴える運動に取り組んでいる。

昨年も11月6日～25日まで11市町すべての自治体との懇談を行い、のべ130人が参加した。また、市川・福崎各町では町長が対応し、行政責任者と直接意見交換をすることができた。

国民健康保険分野については、各自治体の「国保のしおり」に国保法第一条の理念を盛り込むことや、一時的に生活が困窮した場合に窓口負担が減免される国保法44条の周知を徹底することなどを求めた。

介護保険分野については保険料の準備基金を次期へ全額繰り入れることを要望。また、第6期介護保険事業計画について質問をした。ボランティアなどサービスの担い手の確保に苦戦する自治体もみられた。

西播社保協では今後とも自治体への社会保障の拡充を求める要請活動を続けていく。



担当者に社会保障をまもる立場での運営を訴えた

第277回支部幹事会より

11月26日(木)14時30分～ 於 じばさんびる

参加 2人

◆情勢では社会保障費削減と内部留保についてなど議論された。支部の今後の企画として医院経営研究会、成年後見制度学習会、バスツアー、そば打ち体験などについて議論された。

幹事会には、会員の先生はどなたでもご参加いただけます。ぜひご参加ください。お問い合わせは、Tel 078-393-1803 F A X : 078-393-1802 E-mail : arimoto@doc-net.or.jp 担当事務局 : 有本まで